

紀尾井だより

7/8 July / August 2023 [Vol.160]

豊澤富助 — 芸の軌跡

ストラディヴァリウス・コンサート2023
ストラディヴァリウスの魅惑

連載

歌舞伎をめぐる
音楽のことごと 第二回
歌舞伎と清元

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話
オーストラリア音楽界をめぐる3話



紀尾井ホール



豊澤富助

芸の軌跡

文／富岡泰（演劇評論家）

「三味線部への久々の新人です。」
これは昭和47年4月、大阪・朝日座における文楽公演のプログラムに、「新技芸員」として野澤勝司（現・豊澤富助）と鶴澤清友の二人が紹介されたときの記事の一節です。この部分だけ取り上げるとありますが、この二人の新人が誕生する前は、昭和35



© 堀田力丸

2022年2月27日 紀尾井たっぶり名曲公演より

当代の名人の至芸をきく会シリーズを6年ぶりに開催します。文楽三味線方をけん引する豊澤富助さんが昨年2月に挑戦した「伊賀越道中双六 八段目 岡崎の段」（紀尾井たっぶり名曲4）に続き、義太夫の大曲で、上演機会が少なく稀曲とされる「仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段」を演奏します。



◎ 堀田力丸

左から竹本千歳太夫、豊澤富助

年3月二世野澤勝太郎師の甥・勝之輔が入門したのを最後に、十二年間新人はまったく現れず、また文楽全体でも三味線弾きの数は十八名しかいなかったことを念頭に置くと、この記事は途端に重みを持って響きます。深刻な人手不足、後継者不足に頭を悩ませていた関係者が、新人が生まれたことの嬉しさと期待から、思わず「久々の」と口走ったように思われなくなりません。

もともと、人数は少なくても当時の三味線部の陣容は、まさにきら星の如く豪華なものでした。六世鶴澤寛治と二世野澤喜左衛門の二長老を筆頭に、切れ味の鋭い撥捌きと知的な表現をあわせ持った十世竹澤弥七、富助さんが弟子入りした豪腕という言葉が形を持ったような力強

い勝太郎、深味のある美音を響かせた九世野澤吉兵衛、余韻に詩情を滲ませる五世鶴澤燕三といった諸名人に囲まれ、富助さん、清友さん、翌48年に入門した鶴澤清介さんたちの修業は始まりました。富助さんは実父の豊澤瑩緑師も竹本の人間国宝五世竹本雛太夫の相三味線を勤めた名手でしたから、幼少期から太棹の音色に包まれて育ったようなものでした。

勿論、環境がよければ一人前になれるほど、芸の世界は甘くありません。一見、順風満帆続きのような富助さんの芸歴ですが、内弟子三年目に勝太郎師匠が倒れ、また前述したように三味線陣は人数が少なかったため、早くから破格の役がついて、その稽古に苦労した時期もあったようです。しかし、大先輩たちと弾くことを「舞台を勤めながら勉強させていたのだ」と受け止め、「私は本当に恵まれていた」と述懐する言葉からは、芸と先人に対する深い尊崇の念、がうかがわれ、そうした謙虚な姿勢が彼の演奏を「折り目正しく」「端正な」ものにしていくのだと思われれます。

昭和59年4月、二十年ぶりに豊澤姓を復活させ五世富助と改名し、燕三師の預かり弟子となります。この公演での配役は五世豊竹呂太夫との「すしや」後半でした。その後も着実に芸格を上げていき、平成元年2月に芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。平成8年には呂太夫が創始した「義太夫節」を世界に広める会に参加し、アメリカ公演を行っています。この会は平成13年から「話傳の会」と改称し、竹本千歳太夫とドイツで、「盛綱陣屋」「熊谷陣屋」「岡

崎」など重厚な時代物を素浄瑠璃で演奏し、「日本語の通じない所でどれだけ素浄瑠璃が理解されるか」に挑戦しました。この活動によって平成18年5月に文化庁文化交流使に指名されました。平成26年7月にはスイス・ハンガリー・ポーランドで「俊寛」を演奏(国際交流基金主催、新日鉄住金文化財団(当時)企画・共催)、同年8月には外務大臣表彰を受章しています。

その後も特定の太夫に縛られず、豊竹十九太夫との「丞相名残」、豊竹嶋太夫との「十種香」「河庄」などに万能ぶりを発揮してきました。平成26年9月の「盛綱陣屋」前半以降は、千歳太夫の女房役として固定され、その緻密な語りを持ち前のケレン味のない撥捌きで支えています。千歳太夫は令和4年4月に「切場語り」となり、名実ともに文楽を代表する立場となった二人には、今後大役が続くと思われれます。中でも今回手掛ける「山科閑居」は大物中の大物で、昔から紋下(もんした)は大物の第一人者でなければ語れない場面とされてきた物であり、平成10年12月に豊竹咲太夫・清介が一段勤めています。が、殆どの場合は前後に分けて配役されています。雪の降り積もった家屋の中で交わされる本蔵たちの緊迫したやりとりには格調が漂い、武張ったばかりではなく、女性たちが互いを思いやる心情の描写は細やかで、幕切れで哀切に描かれる夫婦親子の別離にいたるまで、息を抜く所がありません。落雪や尺八の音色を表す三味線の手も聞き所で、この大曲が全段通してどう造形されるか、大いに期待されます。

今回は、私を「きく会」とのありがたい依頼を受けて最初はとても戸惑いました。なぜなら義太夫節は太夫さんと二人で稽古して作っていくので私一人の名前で良いのかを考えました。

次に前回こちらで伊賀越の岡崎を弾かせていただいたこともあり、それに並ぶ演目を考え「太夫、三味線になったからには一生に一度は素浄瑠璃で一段弾きたい物として『山科閑居』を」といつもコンビを組んでいる千歳太夫君に話をしてから、ぜひお願いいたしますとお返事をしました。

7月2日という公演日の設定は大曲を弾かせていただく上で稽古日程が重ならないように、前後の文楽公演から2週間以上離れていることを考えて決定しました。

「山科閑居」は一段の中で気を抜くところがないと言われていますが、冒頭部分、雪がちらちら降っている様子、あるいは笹に積もった粉雪が舞い落ちる表現が特に難しいとされています。なにしろその後の文章が「人の心の奥深き……」ですから。さらに小浪の出、「谷の戸明けて鶯の……」の足取りと音色、書き出したら限りがありません。全部難しい。義太夫節の中でも「日向嶋」「道明寺」以上に最難曲と言われていまして、なんとか歌わずかしくないように演奏できればと思っています。

豊澤富助



豊澤富助をきく会

【出演者】
浄瑠璃：竹本千歳太夫
三味線：豊澤富助
聞き手：渡辺 保

7/2
14:00

【演目】
「仮名手本忠臣蔵」九段目 山科閑居の段 対談

※公演開催についての最新情報は 紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

ストラディヴァリウスの魅惑

文／玉井菜採



ヴァイオリン製作史上に燦然と輝く銘器「ストラディヴァリウス」。17世紀半ばに生まれ、イタリア・ロンバルディア地方のクレモナで活躍したアントニオ・ストラディヴァ

リが製作した楽器は、内部に貼られたラベルのラテン語銘「Stradivarius」として名声を獲得しました。その謎めいた羨望を誘う名は、実際の音を聴く前から人々を魅惑する力を湛えています。今なお美音の秘密はヴェールに包まれ、300年の時を経た現代の科学をもってしても、解明は困難です。

ストラディヴァリウスの魅力について、ある人は、音の美しさを宝石や真珠に例え、ある人は、オーケストラと共演してもホルの一番後ろの席まで届く音の伸びやかさを称賛します。容姿も美そのもの。「ヴァイオリンの女王」の名にふさわしく、完全に均整のとれたシェイプ、木目や細工、ニス of 美しさ



日本音楽財団が所有するストラディヴァリウス「カンボ・セリーチェ」(1710年製)9月24日公演に出演するM.ドゥエニャスに貸与されている。

は格別、名工の手が生み出した作品だけでもつ趣と気品、佇まいを後世に伝えます。美術品としても蒐集家を虜にしています。

しかし、よくお正月のテレビ番組などで、多くの芸能人や視聴者がストラディヴァリウスと他の楽器の聴き比べに失敗することからも分かるように、演奏場所や演奏者あるいは楽器自体のコンディションなど、さまざまな条件で「音」の聞こえ方は変わります。ストラディヴァリウス以外にも、もちろん新作にも、音の美しい楽器はたくさんあり、抽象的な言葉でしか表現できない「音」というものの感じ方は、意外と不確かな面もあるかもしれません。

演奏家にとつては、楽器は「相棒」。もはや道具ではなく、人格さえ感じるものです。過去の名匠から現代の製作者まで、作り出

された楽器は、タイプも性格も千差万別です。健康的にストレートに反応するもの、繊細で相手を選ぶもの、天真爛漫なおてんば娘、気難しくも含蓄ある賢者、雄弁で力強いカリスマ、協調性があり他の楽器と響き合う、などなど、

まるで人間のようにキャラクターは多彩です。そして素晴らしい楽器ほど、その能力を引き出す演奏者の実力が問われます。F1レース用の車をだれもが乗りこなせないように、名器ほど実は演奏するのが難しい面もあります。演奏者が一方的に自分の要求を楽器にぶつけても、楽器は必ずしも応えてくれないのです。楽器にもプライドがあるのでは、と感じることもあります。楽器と演奏者の実力が釣り合い、相性がよく、コミュニケーションがうまくとれて、はじめて共同作業がスタートします。いい音が立ちあがるポイントを探し、音色を生み出すさまざまな条件の掛け合わせ(例えば弓の圧力や速さ、駒からの距離や、ヴィブラートのコンピネーションなど)を吟味し、楽器の声に耳を傾け、楽器が応えてくれる限界ぎりぎりの挑戦を続けます。

人はなぜ楽器を弾くのでしょうか。純粹に楽器を弾く楽しみ、音楽を奏でる喜び、そして音を通して音楽を共有する喜び。演奏家が名器を演奏したい(名器と格闘したい)と望むのは、ただ単に美音を求めるのではなく、その音楽の中に、何としてでも表現したいことがあるからです。

クラシック音楽では、作曲家が残した芸術作品を、音で眼前に立ち現すのが演奏家の使命です。作曲家が望んだ音、求めた響きを、自らの魂を賭して表現するために、この瞬間、この音色、表現の最後の最後の部分、そこに貪欲であるがゆえ、演奏家はそ

れに伝えてくれる楽器を求めているのです。それは、本当に例えようもないような音色であつたり、かすかな、気づかれないほどの精妙なニュアンスであつたりするのでしょう。しかし表現者として、至高の音楽作品の中で、届かないかもしれない高みに手を伸ばそうとするとき、ストラディヴァリウスほど応えてくれる同伴者はいないと思えるのです。

玉井菜採 (たまいなつみ)
紀尾井ホール室内管弦楽団コンサートマスター、東京藝術大学音楽学部教授。1998年、フォーバルスカラシップ・ストラディヴァリウス・コンクールで第1位を獲得し、「レインヴィル」(1997年製)を2年間無償貸与され、2003年から現在は東京藝術大学所蔵のストラディヴァリウス「エクス・パーク」(ex-Park) (1717年製)を使用している。

ストラディヴァリウス・コンサート2023

【出演者】
キム・スーヤン、マリア・ドゥエニャス(ヴァイオリン)
パブロ・フェランデス(チェロ)、江口 玲(ピアノ)

9/24
14:00

【曲目】
ラフマニノフ : ヴォカリーズ op.34-14
ベートーヴェン : ピアノ三重奏曲第4番変ロ長調 op.11《街の歌》
ラヴェル : ツィガーヌ
ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ第5番へ長調 op.24《春》～第1楽章
チャイコフスキー : ピアノ三重奏曲短調《偉大な芸術家の思い出に》
op.50～第1楽章
ショスタコーヴィチ : 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品
コルンゴルト : 2つのヴァイオリン、チェロ、左手のためのピアノによる組曲
op.23～第2楽章、第3楽章
主催:日本音楽財団/日本製鉄文化財団 助成:日本財団

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

歌舞伎をめぐる

音楽のことごと

第二回

歌舞伎と清元

ベートーヴェンの時代に 生まれた清元

バッハが没したのは1750年、モーツァルトが生まれたのが1756年です。西洋音楽にも新たな胎動が生まれますが、その少し前に、我が国の三味線音楽に京都方面から新しい波が起りました。初代の都一中(1650~1724)が始めた一中節(1740)が始めた豊後節という浄瑠璃(語り物)がそれです。義太夫節も浄瑠璃です。義太夫は力強い音曲で、語り手は太夫と呼ばれ、ときにセリフを語りときに心情や情景を歌いあげます。一中節は対照的に柔らかく上品な音曲です。豊後節やそれを母胎とする常磐津節についてはまた改めて申し上げます。

清元は豊後節から派生した浄瑠璃のなかでは遅く十九世紀前半に生まれた音楽です。ベートーヴェンが交響曲第七番を書いたころです。常磐津から分かれた富本か

らさらに分派した初代清元延壽太夫が文化11年(1814)に二派を旗揚げすると凄人気で、清元として芝居でも喝采を浴びました。極めて美声の人だったと伝えられています。

清元の魅力とは

清元の魅力は何でしょう。それは溢れでる江戸情緒です。粋で艶やかで、身をおいていると官能的な瞬間すらあります。甲の声、という言葉は高い音域を指しますが、清元は鼻腔を使って響かせ空間に旋律の放物線を描いてみせます。詞章の生み字(最後の母音)を伸ばして節をまわします。なので初めてお聴きになると歌詞が聞き取れないこともあります。でも、気にすることはありません。オペラのソプラノのアリアも同じことです。熱心なオペラファンでもドニゼッティやヴェルディのアリアの歌詞をぜんぶ聞き取れるわけではありません。美しい声と喉の技巧に酔いしれるのです。清元はまさにこの酔いしれるため

にある浄瑠璃です。三味線は中棹、ミドル・サイズの棹で強い音から艶のある高音域まで繊細な技巧が求められます。

歌舞伎の名舞台とともに

歌舞伎での清元は男女の恋模様、道行という名の逃避行、その果ての心中など色っぽい場面によく似合うので、文化文政のころから明治まで大変に流行し四世鶴屋南北や河竹黙阿弥が芝居で使いました。一人の俳優が次々と役を変えて踊る「変化舞踊」にも名曲があります。

「仮名手本忠臣蔵」の松の間の刃傷、主人の一大事に早野勘平は腰元おかるとデートしていたために足利家の館の中に入れてません。義太夫はその焦燥を「裏門」という場面に描きましたが、化成年の名優、七代目團十郎と三代目菊五郎は清元をつかい、東海道の戸塚あたりを落ちてゆく「道行旅路の花婿」(通称「落人」)にして大評判をとりました。黙阿弥が明治14年(1881)に書いた「河内山と直侍」(本名題「天衣粉上野初花」)には、

手配犯の片岡直次郎が恋人の花魁三千歳に忍び逢いにくる場面に清元が使われ

ます。雪の入谷の寮で隣家に清元のお後いがあるという設定、「余所事浄瑠璃」という黙阿弥が得意

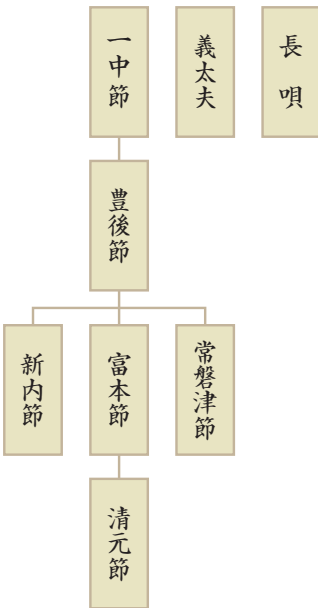
とした演出。いと思いの十寸鏡…で三千歳が立ち身で部屋着の裾をきれいに広げ、直次郎が片膝を立てて恋人を見上げる形に芝居好きは陶醉します。

明治からは演奏のための曲も作られました。日本画家の錦木清方の父で新聞社を経営した條野採菊が作詞した「隅田川」は、能楽の香りのする高尚な作で、歌舞伎舞踊のレパートリーになり、六代目中村歌右衛門さんは海外でもたびたび演じています。粋な清元といえば「お祭り」でしょう。「申西」「神田祭」などの曲があり、鳶頭や芸者衆が江戸の祭禮の浮きたつ気分を満喫させてくれます。どうぞ粋な清元に陶醉してください。

文/岡崎哲也(松竹株式会社 常務取締役 東京交響楽団 理事長)

東京交響楽団 理事長

三味線音楽略系譜 (一部)



2022年9月10日 紀尾井たつぷり名曲公演より

© ヒダキトモコ

オーストラリア 音楽界をめぐる

3話

オーストラリアと音楽といえば思い浮かぶのはシドニーのオペラハウスですが、クラシック音楽の変遷はどのようにたどってきたのでしょうか。

1 イギリス領時代生まれの 大歌手、メルバ

オーストラリアがイギリスから独立したのは1901年のことでした。18世紀後半、イギリス領となったとき、オーストラリアには、先住民による約700の言語が存在していたといわれています。

オーストラリア出身のオペラ歌手で最大のスターといえば、ネリー・メルバ(1861~1931)に違いありません。地元で学んだあと、パリで研鑽を積んだ彼女は、1888



オーストラリアを代表するオペラ歌手ネリー・メルバ

年にロンドンのコヴェントガーデン王立歌劇場にデビューし、その後、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座など世界の檜舞台で活躍。ニューヨークのメトロポリタン歌劇場では、8シーズンに116公演で17の役柄を歌い、大人気を博しました。イギリス領時代のオーストラリアに生まれた彼女の芸名「メルバ」は、故郷のメルボルンから採られたのでした。

メルバの後、エルサ・ストラリア(1881~1945)、ヴェラ・タスマ(1890~1952)、フローレンス・オーストラル(1892~1968)、ドロシー・キャンベラ(1896~1973)ら、オーストラリア出身の歌手が国際的に活躍しましたが、彼女たちもメルバのようにオーストラリアの国名や地名から芸名を採り、オーストラリアを世界にアピールしました。

2 音楽都市シドニー

オーストラリアの音楽的(および観光)シンボルといえば、シドニー・オペラハウスでしょう。ヨーン・ウツソンが設計し、1973年にオープンしたこの総合文化施設は、コンサートホール(2679席)、オペラ劇場(1507席)、3つの演劇のための小劇場を有し、世界遺産にも選ばれています。シドニー交響楽団やオペラ・オーストラリアが本拠地として使用しているほか、オーストラリア室内管弦楽団もここで定

期的に演奏会を開いています。

しかし、オーストラリア室内管にとつてのホームは、2500席を超える巨大なシドニー・オペラハウスのコンサートホールではなく、もう少し小振りな1238席のシドニーのシテイ・リサイタル・ホールなのです。ここは、オーストラリアを代表する古楽演奏団、オーストラリア・ブランデンブルグ・オーケストラも本拠地としています。

2000年のシドニー・オリンピック開会式では、シドニー出身のシモーネ・ヤング(彼女はチャールズ・マッケラスと並ぶ、オーストラリア出身の国際的指揮者)がシドニー交響楽団を率いてオーストラリア国歌を指揮したのです。

3 オーストラリアを巡回する 音楽団体

独立の際、シドニーもメルボルンも首都への名乗りを上げて争い、その妥協案として両都市の間にあるキャンベラが首都となったように、各都市の地元意識は高いです。しかし、南半球にあるオーストラリアに欧米から音楽団体がやって来るのが難しいことは確かです。オーストラリアを代表する音楽団体は、本拠地にとどまることなくオーストラリア国内で公演を行っています。

たとえば、オーストラリア室内

管弦楽団は、一つのプログラムにつき、シドニーで約5公演ほど行うほか、メルボルン、キャンベラ、ブリスベン、アデレード、パースでも同一プログラムで演奏会を開き、合計10公演以上を行っています。東海岸のブリスベンから西海岸のパースへの移動は4000キロを超えます。まるで全欧や全米規模のツアーを1年に何度も行っているのですから驚くほかなりません。

また、オペラ・オーストラリアは、本拠地であるシドニー・オペラハウスでのシーズン(2023年は7演目)のほかに、メルボルンにも定期的に滞在し(2023年はワグナーの「タンホイザー」とグラスの「サティアグラハ」を演奏会形式で上演)、2023年12月には、ブリスベンのみでワグナーの「ニーベルングの指環」四部作を3サイクル(計12公演!)上演します。

文/山田治生(音楽評論家)



シドニー・オペラハウス

リチャード・トネッティ&オーストラリア室内管弦楽団

【出演者】
オーストラリア室内管弦楽団
リチャード・トネッティ(リードヴァイオリン)

10/10
火
19:00

【曲目】
ヤナーチェク : 弦楽四重奏曲第1番 小調(クロイツェル・ソナタ)
ハース : 弦楽四重奏曲第2番 op.7
ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ第9番 長調 op.47(クロイツェル)
(全てトネッティ編 弦楽オーケストラ版)

後援:オーストラリア大使館

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

小・中・高生の皆さんを「紀尾井みらいシート」へご招待♪

当財団では主催公演に「紀尾井みらいシート」を設けて、小学生から高校生の皆さんを抽選でご招待しています。クラシックって難しくない？ 伝統音楽って近寄りにくいなぁ……と思っているかたも大丈夫です。

まずは心のままに音楽を感じて、ライブならではの感動を体験してみませんか？

今年度もクラシック・邦楽ともに全主催公演で募集中。ご応募をお待ちしています。

対象：小学1年生から高校3年生(保護者とペアでご用意します)
※中学生と高校生は保護者の承諾により本人のみでのお申込みも可。

ご招待数：クラシック/10席 邦楽/6席

募集期間：各公演のチケット発売日から公演の1ヶ月前まで(原則)。
詳細はチラシやホームページ等をご確認ください。

応募方法：紀尾井ホールウェブサイトの専用応募フォームから送信ください。
詳しくは <https://kioihall.jp/kioimiraiseat> をご覧ください。



ネットでの登録や買いものはちょっと不安 ……だれか助けて！

日本製鉄文化財団 主催公演チケットTIP②

紀尾井ホールウェブチケットは、PCやスマートフォンでウェブサイトからチケットをご予約いただけます。ネットでのお買いものには、いろいろな不安がつきものです。とくに初回はお客さまのお名前やご連絡先などをご登録いただく「利用登録」が必要となります。いざチケット予約となるとお支払いに直結するので間違いは絶対に避けたいもの！ そういう時はヘルプデスク0570-550-372(受付:火曜日~金曜日・12時~16時、祝日も対応)に電話でお気軽にお問合せください。専任のオペレーターがやさしく、ていねいにご案内します。

TIPのコナーでは当財団主催公演チケットの「購入手続きの中でのヒント(Tips in Purchase)」をご紹介します。



お知らせ

9月公演より 開場時間が30分間に

2023年9月以降に開催する当財団の主催公演について、発券済みのチケット券面等の表示にかかわらず、**開場時刻を開演の30分前に変更**いたします。

今号の表紙

『三味線と桔梗』

【協力】花/レミルフォイクドゥカリベルテ 紀尾井町店
三味線/今藤長龍郎

今回登場する三味線は長唄で使われる細竿の三味線です。室町時代に琉球から伝わった三線に多くの改良が加えられ、江戸時代には一般庶民に広く親しまれるようになりました。桔梗は日本全土で見られるので、

三味線と同じように日本人には馴染みの花ですね。花言葉の「永遠の愛」「変わらぬ愛」は、歌舞伎作品でもよく扱われるテーマで、長唄でもたくさん唄われています。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行
三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社
《ひびき会員》オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計
《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/
鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/
大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/
ハウス食品グループ本社/パナソニック/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/
三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージジョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
《あおい会員》青木陽介/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/岩城宏斗司/
上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/久久保なほ子/太田清史/小川 保/小倉 ヒロ・ミハエル/
小樽茂稔/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/
菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野妙妃/小坂部恵子/小西美由紀/斎藤公善/坂詰貴司/
佐久間庸行/佐部いく子/潮崎通康/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/鈴木順一/鈴木 亮/
高下謙吾/武上由佳/田中 進/戸田純也/外山雄三/鳥居荘太/内藤美奈子/内藤基之/中塚一雄/
中西達郎/中野洋子/中村健司/中山昌樹/名取正夫/西村勉美/原田清朗/日原洋文/冬木寛義/
北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/丸井正樹/簗輪永世/宮島正次/宮田宜子/
宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/
矢田部靖子/山内寿実/横手 聡/渡邊一夫/渡辺弘次/渡辺由香里
ほか匿名45名 計243口 (2023年6月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/
NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/
大阪製鉄/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鉄/
鴻池運輸/小松シャリング/山九/産業振興/三見金属工業/
サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/
スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/
鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/
東邦シートフレーム/トビー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/
日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/
日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/
日鉄工材/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/
日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精鋼/
日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/
日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/
日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ポルテン/
日鉄溶接工業/日鉄レールウエイテクノス/日本金属/日本触媒/
濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/
幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/
吉川工業/ワコースチール
日本製鉄 (2023年6月1日現在)

3.7(火) クアルテットの饗宴2022
ドーリック弦楽四重奏団



© 武藤章

クアルテットの饗宴に2019年に続いて2度目の登場となりました。メインプログラムのスメタナ《わが生涯より》では冒頭からヴィオラのソロで引き込まれ、エネルギーが溢れる終盤から最後は静かに幕を下ろす…一人の人生の物語を聴いているようでした。

3.13(月) 浮世絵で楽しむ邦楽～大谷コレクション2
河竹黙阿弥の世界



© 堀田力丸

大谷家が所蔵する貴重な浮世絵をスライドで鑑賞しながら、三味線の杵屋巳太郎さんと、歌舞伎の劇評でおなじみの渡辺保さんの軽快な解説。そして普段表舞台では目にすることができない黒御簾音楽の実演が大好評でした。

4.15(土) 紀尾井たっぷり名曲6長唄「二人挽久」「鶯娘」
杵屋東成×杵屋勝禄



© 堀田力丸

アンケートより

東成師、勝禄師、ともに貫禄を見せて、技巧を表に出さず、柔らかな味や潤いを大切に演奏されていたのは、さすがであると感服いたしました。また、将来を嘱望される若手の方を脇に使い、その方たちが、素晴らしいパフォーマンスをされていたのも心に残りました。こうして、至芸が伝承されていくことを喜びたいと思います。

4.21(金)・22(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団
第134回定期演奏会



© 武藤章

シューベルトの《ザ・グレイト》では、ピノックとKCOでしか出せない音の調和と柔らかさが相まって会場全体が幸福に満ちていました。ピノックさんの指揮は不思議と演奏者も聴衆も幸せな気持ちにさせてくれます。

5.19(金) 三菱地所 presents 協賛：三菱地所株式会社
紀尾井 明日への扉 第35回 河井 勇人(ヴァイオリン)



アンケートより

© 堀田力丸

体力、気力ともに満ち溢れ、それぞれの作曲家の弾き分けも繊細。ソナタ4曲に無伴奏パッサ、意欲的なプログラムにも感動。清水和音氏のピアノも伴奏の域を超え、素晴らしかった。

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

公式 SNS で最新情報配信中



紀尾井
ホール

紀尾井ホール
室内管弦楽団



紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号
TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

公演の
最新情報などは
こちら



<https://kioihall.jp>